

多治見根本校区地域力向上プラン 実践編

地縁を越えてテーマでつながるまち！根本

- **日時**：2012年9月29日（土） 13時35分～16時10分
- **場所**：多治見市根本公民館
- **参加者**：各分科会…防災12人、地域交流3人、高齢者・障がい者5人、子ども・子育て6人、防犯6人、自然・生活環境8人、多治見市役所4人、社会福祉協議会1人、支援団体（NIE D）2人
- **ファシリテーター**：伊沢令子（NIE D・国際理解教育センター）、**記録**：川合眞二（同左）
- **配布資料**：会議レジュメ、各グループ実施計画シート
- **会議のねらい**
 - ① 分科会ごとに、これまでの活動をふりかえり、できたこと・良かったことを共有する。
 - ② 分科会ごとに、今後3年間に取り組むこと、必要なものを発表し、全体で内容について確認する。
 - ③ 個別の課題、共通の課題を共有し、解決の手だてを提案しあう。

● プログラム

1. あいさつと会議の趣旨説明 13:35-[10]
2. 分科会から活動報告&質疑応答 13:45-[110]

① 地域交流分科会	② 子ども・子育て分科会
③ 自然・生活環境分科会	④ 防犯分科会
★ 途中休憩 15:03-[7]	
⑤ 高齢者・障がい者分科会	⑥ 防災分科会
3. 全体を通した提案 15:42-[26]
4. 連絡事項 16:08-[2]
- ★ 終了 16:10

● 記録

[]：所要時間

1. あいさつと会議の趣旨説明 13:35-[10]

- 久我会長あいさつ…全体会議の進め方について説明する。
- あいさつと研修のねらいの確認等…ファシリテーター伊沢にバトンタッチ、レジュメを読み上げ、この全体会議の趣旨とねらい、プログラムについて説明する。
- 配付資料の確認



2. 分科会から活動報告 & 質疑応答 13:45 - [110]

- 達成できたこと・良かったことの確認…報告にあたり、分科会で「活動に取り組んできて達成できたこと、よかったこと」を出し合い、用紙に3つにまとめる。
- 分科会からの活動報告…各分科会から、次の手順で活動報告を行う。

- ① これまでの活動内容と今後の予定についての報告（「実施計画シート」の説明）…（略）
- ② 達成できたこと・良かったこと発表
- ③ 発表を聞いて良いと思うところを付せん紙「良かったね！カード」に書く（発表外の分科会）
- ④ 質疑応答

◆ 地域交流分科会

<達成できたこと・よかったこと>

- ◇ 趣味の分科会等を調べる中で、良い事、問題のある事が多少わかってきて、次の手当を考えられるようになった。
- ◇ ステーションでハッピー喫茶を立ち上げ、口コミで他地域の人にも来ていただき、喜んで頂いている。
- ◇ スポーツ等全区の試合など趣味の交流をできるよう進めていくこと。



<質疑応答>

- ◇ 地域サロン（ステーション）はよいことなので、具体的な案があったら教えてほしい。
→ 他地域の人にチラシを配り来てもらうようにしている。現実をみてもらいこれならやれそうだ！と広がるのとよいと考えている。まだ広がっていないが、来てはいただいている。
- ◇ 各地域で既に行っているひまわりサロンとの連携を考えたらどうか？
→ ひまわりサロンは、年齢層として高齢者が多くテーマをもって活動しているが、こちらの方はいろんな人が自由に話してもらっている。誰でも気楽に参加できるようなものをめざしている。
- ◇ 困っている人は具体的にどんな方か？
→ お年寄りの分科会で、テーブルを出すことにしても重労働で大変で手伝ってほしい。生徒を集めるのが難しく閉鎖せざるを得ないところも。
- ◇ ごちそうになるのは気が引けるので100円のコーヒー代にしたのはよいと思うがどのような反応か？
→ 最初は料金を取るの不安だったが、結果100円でも出せば気やすいという反応だった。100円の雰囲気に見合うような雰囲気づくりをしている。
- ◇ 年代層をみると、子育てチームとしては関心がある。子ども達も参加して、地域の大人たちと交流できるようなカタチになるとよいと考えるがどうか？
→ 現時点では子どもまでは考えていない。ただヤングママもどうぞ！とチラシに書いている。

◆ 子ども・子育て

<達成できたこと・よかったこと>

- ◇ あいさつ運動…学校行事の時に「家庭でも挨拶を大切にしたい」といったチラシを配る。
- ◇ 親子・多世代参加の行事…壊れたおもちゃなどを持ち寄ってもらい修理。手づくりの交通安全をテーマに工作教室。

- ◇ 「心配り」「気配り」の地域社会作り…通学路の安全を見直すため、登下校に立ち会い、問題点をもとに通学路を変更して頂いた。

<質疑応答>

- ◇ 手作りの工作は、想像力をかき立てるのでとてもよい。今の子どもは危険から遠ざけすぎている。痛い思い、熱い思いを子どもの頃に経験するとよい。過保護の子育てにしないようにするとよいと考える。

→ 危険から敢えて遠ざけないようにはしているが、それを見守る大人も必要なので、ぜひ協力してほしい。



◆ 自然・生活環境

<達成できたこと・よかったこと>

- ◇ 分科会全員の共通認識ができ、チームワークがよくなった。
- ◇ 現地巡回を行うことで、地域の課題がいろいろ見えてきた。
- ◇ 根本川に往年のホタルが復活できたと確認することができた。

<質疑応答>

- ◇ ホタルの活動はうれしい。歴史マップ、ホタルマップの調査結果を、学校で大きな地図に加えていくような取り組みができるとよい。自分が学校に持って行くのは協力したい。

→ 視察先でも学校を挙げて協力していたので、子どもの情操教育の観点からも、子どもにも参加してもらえたらよいと考えている。マップも作成するので、それをもとに行ってもらえたらよい。

- ◇ ホタルの観察できる場所を作るのはとてもよい。ホタルが生息する条件として光を嫌うが、防犯と相反する。それをどう考えるか？

→ 光が当たるとホタルは逃げる。ホタルが飛ぶ1～2時間だけは防犯灯を消すというやり方ができる。

→ 防犯灯を自在に切れるようにする必要がある。

- ◇ LED防犯灯にすると、夜空が見えるようになる。星空観察のためにもLED防犯灯の普及を進めるとよい。



◆ 防犯

<達成できたこと・よかったこと>

- ◇ 防犯意識の向上を図ることができた。防犯チョッキを着て歩くことで意識づけができた。
- ◇ 町内の様子が思いがけないことが発見でき、隅々まで把握することができた。
- ◇ 防犯灯の不具合が発見できた。

<質疑応答>

- ◇ パトロール隊を結成されてすばらしい。どんなパトロールをどんな頻度で行っているか。

→ 自分の時間が空いている時に昼夜問わず各自パトロールする。長続きするためにもそのような方法を取っている。マグネットシートを付けて車でのパトロールも行っている。

- ◇ 子ども 110 番の活用について教えてほしい。
→ 一番多いのはトイレの利用である。子ども・子育て分科会でも子ども 110 番の協力を考えている。
- ◇ 一番大事なのは各家庭の防犯意識改革だと考えるが、そのための活動は考えているか？
→ 今のところそこまでは行っていない。まずはパトロールが先決と考えているが、ゆくゆくはそこまで行きたい。
- ◇ 防犯灯、放置自転車のことは、町内会に連絡がいているか？
→ 町内会に連絡している。



★ 途中休憩 15:03-[7]

◆ 高齢者・障がい者

<達成できたこと・よかったこと>

- ◇ 高齢者・障がい者の把握の仕方が地域によって異なっていることがよくわかった。
- ◇ 情報の把握は困難だが、方法はない訳ではないということがわかってきた。
- ◇ 地区役員、民生委員との交流の糸口が見えてきた。

<質疑応答>

- ◇ 難しいテーマを取り組んで頂いていてありがたい。対象の名前が分かった時にはどこまでオープンにするのか？
→ 紙ベースでは情報漏洩の恐れがある。個人情報符号化して頭の中に入れる方法を取る。ただ引き継ぎは難しいという課題は残る。



◆ 防災

<達成できたこと・よかったこと>

- ◇ 校区の協調力の必要性がわかった。
- ◇ 防災意識の向上がメンバー内でも図られた。
- ◇ 現実的な課題がわかり、目標が明確になった。

<質疑応答>

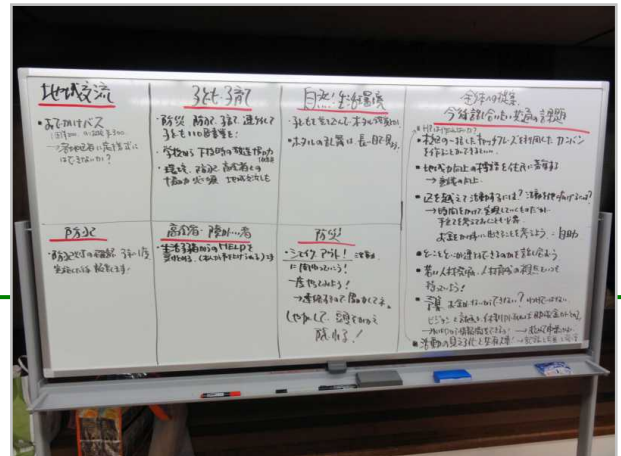
- ◇ 「昨年の水害の状況を総括し実際に水が来たところを記録に残す」とのことだが、水害の状況は、昨年だけでなく、その前のものも含めて記録にしてもらえるとよい。そして交流センターに置いてほしい。



- よかったね！カードの共有…回収した「良かったね！カード」を各分科会に渡し、内容を確認してもらう。
- ファシリテーターコメント…共通している良かったところは、「地域の現状を把握することができた」「チームワークができた」だと思う。活動はすばらしくよく進んでいると思う。マンパワーがある。

3. 全体を通した提案 15:42－[26]

- ファシリテーターコメント…本日の会議のテーマでもある「地縁を越えてテーマでつながるまち！根本」を実現するために、他のチームへの提案、全体を通した提案・課題を出し合う。省資源＝お金をかけない、省エネルギー＝必要以上の力を入れない、方法でいろんな人を巻き込みができる提案を出す。



① 防災分科会への提案

- ◇ 「シャイクアウト…ドロップ、カバー、ホールドオンを一斉に行う」を一緒にしたい。

② 地域交流分科会への提案

- ◇ お出かナバス（1回200円、乗り放題300円）の定期券を発行してほしい。→お出かナバス検討委員会で検討中である。

③ 高齢者・障がい者分科会への提案

- ◇ 「生活弱者を探してこちらから助ける」という考え方とともに、「弱者から助けてほしい、という本人から意思表示ができるような環境づくり」を行うことが大切である。

④ 子ども・子育て分科会への提案

- ◇ 防犯・防災・子どもグループが連携した子ども110番の活用をするとよい。
- ◇ 「ただいまから下校するのでみなさん見守りお願いします」という放送をするとよい。
- ◇ 子育てのための環境づくりには、星空観察では自然環境、子どもの登下校の見守りは防犯グループ、災害の時に子どもをどう守るかは防災グループ、大人と子どもの交流では地域交流グループとの連携が必要になる。

⑤ 防犯分科会への提案

- ◇ 防犯灯の点検については、3年に1回多治見市から依頼がある。その機会も活用するとよい。

⑥ 自然・生活環境分科会への提案

- ◇ 子どもを巻き込んでホタル観賞をするとよい。
- ◇ ホタルが乱れ飛ぶといった期待があるが、急にそこまでいかない。カワニナの飼育から始めることが大切。用水路の土の環境づくりが必要である。

⑦ 全体を通した提案

- ◇ ホームページに資料などをアップできるようにして共有できるとよい。
- ◇ 各グループで看板を作るという提案があるが、全体として根本校区のキャッチフレーズを看板やのぼりにするとよい。
- ◇ 標語を根本校区の住民に公募をすると、住民の関心が高まるのでよい。
- ◇ 地域力は長年かけて作っていくということであれば、点で行っている今の活動をいかに広めるかが大切である。ある活動を他の地区で行うようにするにはどうしたらよいかを考える。連携してできることは連携するというのを考えるとよい。
- ◇ 予算の問題もある。
- ◇ 活動の担い手としても若い人を育てる必要がある。

⑧ 支援団体（NIED）からの提案

- ◇ 予算獲得について…ビジョンプログラムマネジメントができています素晴らしい活動なので、実施計画をしっかり作れば、助成金や委託などで活動経費は獲得できると思う。ただし、助成金や委託は年度単位なので、特定の年度に分科会がある程度一斉に活動するような形を取る必要はある。
- ◇ 活動の見える化について…ここにいる人たちは活動を実際に進めるコアメンバーであるが、その周りの住民を巻き込んでいくためには、活動をビジュアルに伝える写真や映像が重要なツールである。活動する際には、意識して人に見てもらうための写真などを撮るとよい。また、取った写真などは、フェイスブックページやブログなど簡単にウェブ上にアップする方法があるので、活用するとよい。何かお手伝いできることはしたい。
- ◇ 看板・ノボリの統一について…各分科会で看板やノボリを作るとい話があるが、推進会議として統一したロゴや色などを決め、乱立しないように進めるとよい。
- ◇ 活動資料の一元化について…今日の会議資料もそうだが、お知らせ、会議資料、会議記録など、メンバーがいつでも見られるように一元化して管理し、共有できる仕組みを作るとよい。新たに入るメンバーにも経過を伝えることができる。

4. 連絡事項 16:08－[2]

- シェイクアウト体験…防災関連で、「シェイクアウト」についてお知らせし、この場で実際に模擬体験する。



★16:10 終了 お疲れ様でした！！

